

## 調査紹介シリーズ

# 藻岩丸山の野ネズミ調査日記

渡辺展之

昨年度、札幌市の博物館の仕事で藻岩山・丸山の動物調査をしました。その中で、都市部との隣接部にすむ野ネズミについて調べましたので、簡単に結果を紹介します。

### 都市に隣接した自然

藻岩山・丸山は、札幌市の西部に位置する札幌市民なら誰でも知っているとても身近な自然です。一部は国の天然記念物になっていて、大きな木がたくさんある原始林が残されています。

地図を見ると、丸山はすでに周囲を街によって囲まれていて、藻岩山は東側が所々線り抜かれたように住宅地ができてのが分かります(図)。このように森と市街地がすぐ隣り合わせの状態にあり、住宅のすぐ裏が原始林なんていうぜい沢なお家もたくさんあります。

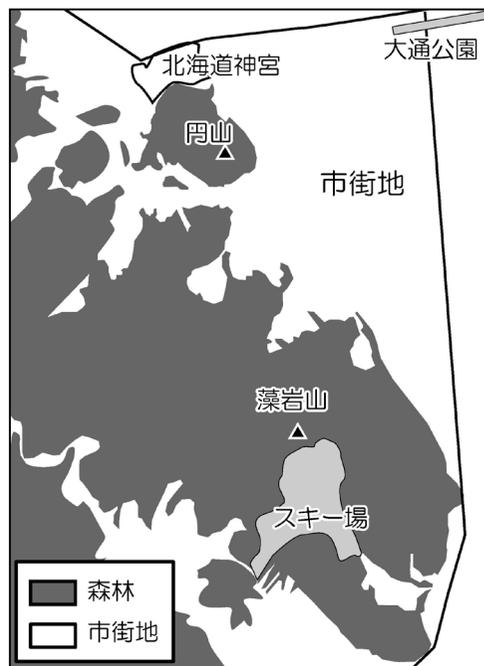
今回は、市街地と接する森林でネズミの生息状況を生け捕りワナを使って調べました。藻岩山や丸山の中心部に野ネズミが生息している可能性が高くなります。ここでは、市街地に近い森でくらしているのかを確認するのに、7ヶ所の林縁(林の縁から5~20mくらいの場所)を選んで調べてみました。これらの林縁はみな道路や住宅地と接しています。

### 野ネズミの生息は？

調査の結果ですが、7ヶ所のうち5ヶ所で野ネズミが確認され、藻岩山・丸山の両方で生息していました。確認されなかった2ヶ所でも野ネズミのものと思われる糞の



丸山を望む



食痕が見つかっています。ネズミの種類は、いずれも森林にクラスアカネズミやヒメネズミでした。住宅地のすぐそばでも、ごく普通に森のネズミが暮らしていたわけです。街と接する林縁は、野ネズミにとって一見とてもすみずらそうですが、必ずしも悪い面ばかりではありません。この山の林縁には、オニグルミが多く生えていて、特に林

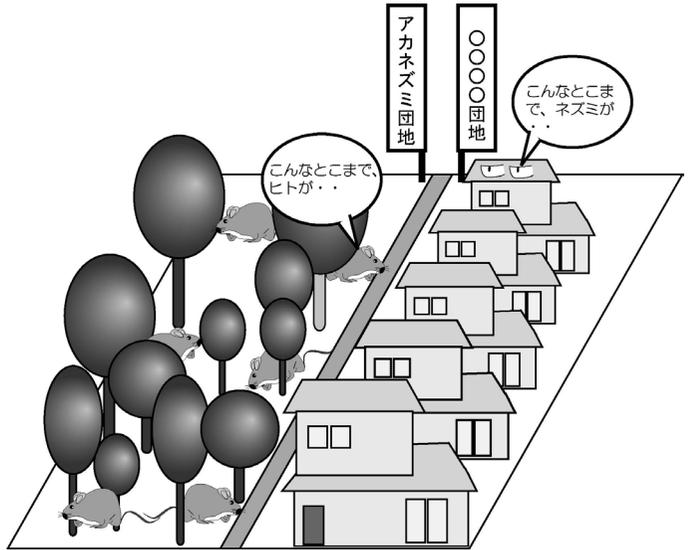


クルミを大量に貯食

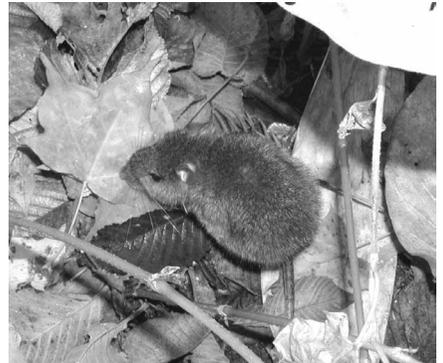
縁に集中しています。藻岩山・円山の東縁には、急な斜面になっていて地表に水がしみだしている場所が多くあります。加えて林縁は日当たりがよく、こうした環境がオニグルミの格好の生育地になっています。このため、たくさんの実をつける木が成長して、野ネズミは冬のエサを十分確保できます。また、湿潤な環境は、水分を保持するなど野ネズミ自身の暮らしにとっても重要で、沢が残されている場所が多いことも、すみやすくしている理由と考えられます。

一方、住宅地がそばにあるため、飼いネコの存在が脅威になりそうですが、現在の野ネズミの生息状況からみると、それほど影響はないようです。

以前、札幌東部の孤立林で行なった調査では、野ネズミ生息する林はわずかでした。藻岩山・円山の市街地と接する場所ではふつうに野ネズミが生息し、とても身近で観察しやすい動物であることが確認できました。



ヒメネズミ



アカネズミ

※ ちなみに野ネズミ観察ハウスを設置した西野の森（通信 26 号参照）は、藻岩山から手稲山の間の中にあり、同じようにオニグルミの多い森です。また今年の雪どけ後に観察ハウスの中のエサを確認したところ、置いたひまわりのタネがほとんど食べられているのが初めて確認されました。今後は、ハウスの本格的な生態観察の利用に向けて思案しているところです。